

第135回 日商簿記検定試験 2級 工業簿記 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第4問

1. 補助部門の製造部門への配賦

(1) 修繕部（修繕時間を基準に配賦）

① 第1製造部への配賦額

$$78,000円 \times \frac{60時間（第1製造部）}{60時間（第1製造部）+70時間（第2製造部）} = 36,000円$$

② 第2製造部への配賦額

$$78,000円 \times \frac{70時間（第2製造部）}{60時間（第1製造部）+70時間（第2製造部）} = 42,000円$$

(2) 倉庫部（材料運搬回数を基準に配賦）

① 第1製造部への配賦額

$$64,000円 \times \frac{20回（第1製造部）}{20回（第1製造部）+12回（第2製造部）} = 40,000円$$

② 第2製造部への配賦額

$$64,000円 \times \frac{12回（第2製造部）}{20回（第1製造部）+12回（第2製造部）} = 24,000円$$

2. 製造部門費の予定配賦率

(1) 第1製造部

$$(104,000円 + 36,000円 + 40,000円) \div 1,500時間（第1製造部の予定機械稼働時間） = 120円／時間$$

(2) 第2製造部

$$(99,000円 + 42,000円 + 24,000円) \div 1,100時間（第2製造部の予定機械稼働時間） = 150円／時間$$

3. 製造間接費－第1製造部勘定の記入面

(1) 予定配賦額（貸方：仕掛品の金額）

$$120円／時間（予定配賦率） \times 1,440時間（第1製造部の実際機械稼働時間） = 172,800円$$

(2) 配賦差異

$$172,800円（予定配賦額） - 182,000円（実際発生額） = \triangle 9,200円（不利差異）$$

4. 製造間接費－第2製造部勘定の記入面

(1) 予定配賦額（貸方：仕掛品の金額）

$$150円／時間（予定配賦率） \times 1,000時間（第2製造部の実際機械稼働時間） = 150,000円$$

(2) 配賦差異

$$150,000円（予定配賦額） - 144,500円（実際発生額） = 5,500円（有利差異）$$

5. 仕掛品勘定の記入面

(1) 製造間接費－第1製造部勘定

$$172,800円（第1製造部の予定配賦額）$$

(2) 製造間接費－第2製造部勘定

$$150,000円（第2製造部の予定配賦額）$$

第5問

1. 生産データの整理（単位：個、かつこは加工換算数量）

月初仕掛品 800 (400)	完成品 4,300 (4,300)
当月投入 3,900 (4,100)	月末仕掛品 400 (200)

2. 標準配賦率

(1) 固定製造間接費の標準配賦率（問1の解答）

$$3,780,000円（固定費の予算） \div 9,000時間（基準操業度；当月正常直接作業時間） = 420円／時間$$

(2) 変動製造間接費の標準配賦率

$$780円／時間（標準配賦率） - 420円／時間（固定製造間接費） = 360円／時間$$

3. 当月の標準配賦額

(1) 当月の標準直接作業時間

$$4,100個（当月投入の加工換算数量） \times 2時間（1個当たりの標準作業時間） = 8,200時間$$

(2) 当月の標準配賦額（問2の解答）

$$8,200時間（標準直接作業時間） \times 780円／時間（標準配賦率） = 6,396,000円$$

4. 製造間接費差異（問3の解答）

(1) 製造間接費総差異

$$6,396,000円（標準配賦額） - 6,890,000円（実際発生額） = \triangle 494,000円（不利差異）$$

(2) 予算差異

$$360円／時間（変動製造間接費の標準配賦率） \times 8,500時間（実際直接作業時間） + 3,780,000円（固定費予算） - 6,890,000円（製造間接費の実際発生額） = \triangle 50,000円（不利差異）$$

または、

$$360円／時間（変動製造間接費の標準配賦率） \times 8,500時間（実際直接作業時間） - 3,110,000円（変動製造間接費の実際発生額） = \triangle 50,000円（不利差異）$$

(3) 能率差異（変動費と固定費の合計から算定）

$$780円／時間（標準配賦率） \times \{8,200時間（標準直接作業時間） - 8,500時間（実際直接作業時間）\} = \triangle 234,000円（不利差異）$$

(4) 操業度差異

$$420円／時間（固定製造間接費の標準配賦率） \times \{8,500時間（実際直接作業時間） - 9,000時間（基準操業度；当月正常直接作業時間）\} = \triangle 210,000円（不利差異）$$